ガソリンの取り扱いに注意!!

函館市消防本部

ガソリンの特性

- 気温が－40℃でも気化して，小さな火源や静電気でも引火し**爆発的に燃焼**する物質です。
- 気化しやすく，その蒸気は空気より重いので，滞留して広範囲に広がります。
- 電気を通さない（不良導体）ことから，静電気が蓄積しやすいです。

貯蔵・取扱い時の留意事項

- 消防法令に適合した，**ガソリン携行缶**（金属製容器）に限られ，ポリタンクなどの他の容器の使用は消防法により禁止されています。
- 周辺は**火気厳禁**です。火気や火花を発する機械器具等は絶対に使用しないでください。また，発電機等の**エンジン稼働中の給油は，絶対に行わない**ようにしましょう。
- 静電気による着火を防止するためには，地面に直接置くなど静電気の蓄積を防ぐ必要があります。また，**消火器を必ず準備**しましょう。
- 携行缶は密栓し，火気や高温部から離れた直射日光の当たらない，**通風，換気の良い場所**で貯蔵・取り扱うことが必要です。
  特に夏期においては温度が上がってガソリン蒸気圧が高くなり，缶内の圧力が高くなることに留意しましょう。
- 開口前に必ずエア調整ネジを緩め，缶内の圧力を調整してからキャップを開けること。キャップを一気に開けると，**内圧差によるガソリンの噴出**など大変危険です。
- その他取扱説明書等に書かれた容器の操作方法に従い，こぼれ・あふれ等がないよう細心の注意を払いましょう。